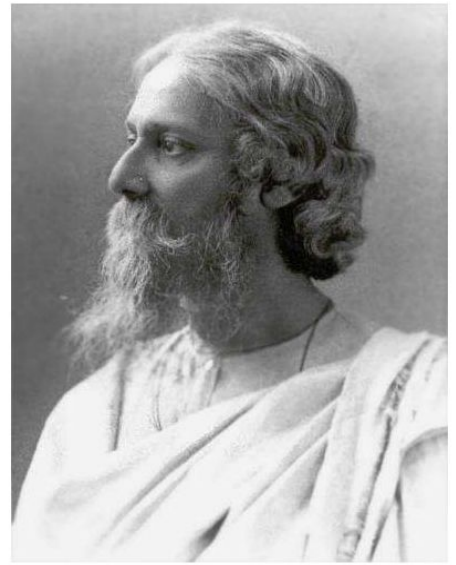


# タゴール生誕 150 年 記念会概要と ご協力をお願い



## 100年後 (1940年著)

ラビンドラナート・タゴール (森本達郎訳)

いまから百年後に わたしの詩の葉を 心をこめて読んでくれる人 君はだれか—  
いまから百年後に？  
早春の今朝の喜びの 仄かな香りを、 今日あの花々を、鳥たちのあの唄を、  
今日のあの深紅の輝きを、  
わたしは 心の愛をみなぎらせ 君のもとに 届けることができるだろうか—  
いまから百年後に。  
それでも、ひととき 君は南の扉を開いて 窓辺に座り、遙か地平の彼方を見つめ、  
物思いにふけりながら 心に思いうかべようとする—  
百年前の とある日に ときめく歓喜のひろがり、天のいずこよりか漂い来て  
世界の心臓(こころ)にふれた日のことを—  
いっさいの束縛から解き放たれた  
奔放で うきうきした 若やいだ早春(ファルグン)の日のことを—  
羽ばたく翼に 花粉の香りをいっぱいさせた  
南の風が にわかに 吹き寄せ 青春の色調で 大地を紅く染めたのを—  
昔の時代(とき)から百年前に。  
その日、生命たぎらせ、心に歌をみなぎらせて なんと詩人は目覚めていたことか、  
どんなにか愛をこめ どんなにか多くの言葉を 花のように咲かせたがっていたことか！  
百年前の とある日に  
いまから百年後に 君の家(うち)で、歌って聞かせる新しい詩人は誰か？  
今日の春の歓喜(よろこび)の挨拶を、わたしは その人に送る。  
わたしの春の歌が、しばし君の春の日に こだましますように。  
君の心臓(こころ)の鼓動のなかに、 若い蜂たちのうなりのなかに、  
そして、木の葉のざわめきのなかにも、こだましますように。  
いまから百年後に。



ベンガルの村の子どもたち

Photo by Anis Khondoker

タゴール生誕 150 年記念会

## 趣意書

東日本大震災で被害に遭われた方々へ謹んでお見舞い申し上げます。あの瞬間まで、こんな大惨事になるとは思いませんでした。被害に遭われた方々はまさか自分が、家族が、友人がこのような事態に遭うとは思いませんでした。なぜ、どうして、と。人知を超えた自然の脅威、人間がこんなにも小さいのかと思ひ知らされています。今までの繁栄と豊かさが問われ、私という存在も問われています。

太陽、月、雲、雨、川、樹、花、山……自然は絶えず私たちに語りかけていますが、忙しい私たちはそれに気づきませんでした。タゴールはこうした自然との交信ができる預言者でした。

タゴールは1861年5月7日、ベンガルに生まれました。詩聖として尊敬されたほか、音楽・絵画・戯曲・小説・思想・哲学など、あらゆる面で優れた才能を開花させ、その深い智恵と高い精神性は、多くの人たちに多大な影響を与えました。

タゴールがその多彩な文化・芸術活動を通じて訴え続けたもの、それは「自然との共生」「東西の融合」「平和」でした。こうした理念を人々の間に広げるため教育にも力を注ぎ、シャンティニケタン（平和の郷）にタゴール国際大学を設立しました。また、民族の独立と自治の必要性を説き、マハトマ・ガンディーらの、イギリス統治からのインド独立運動を支持・支援しました。タゴールが作詞・作曲した歌が、インド国歌、バングラディッシュ国歌になりました。さらに、ロマン・ロランやアインシュタインら世界の知識人と親交を深めるなど、その活動は世界的な広がりをもっていました。タゴールが生涯を通じて発し続けたメッセージは、国境、民族、宗教を超えて今なお光を放っています。

タゴールはまた、日本にも大きな影響を与えました。岡倉天心らとの交友を通じて日本への関心を高め、親日家となったタゴールの来日は、1916年から1929年までの間に5回に及びました。日本画の技法に感嘆したタゴールは栃木県出身の日本画家・荒井寛方をインドのシャンティニケタンに招き、インドの人たちに日本画を学ばせました。他にも、柔道教授のため招聘された高垣信造、またタゴール学園での茶の湯・生け花教授のため招聘された星マキらは日本文化の紹介に力を注ぎました。タゴールによって日印文化交流、日本とインドの友好関係の基礎が築かれたといえるでしょう。

明治維新以来、「脱亜入欧」をスローガンに西洋文明の模倣と軍備拡張の道をひた走り続けてきた日本に警告を発したのもタゴールでした。当時の日本国民はこれを一笑に付しましたが、その後の日本はタゴールが危惧していた方向へ突き進み、破局を迎えました。

今年2011年タゴール生誕150周年を迎えるに当たり、タゴールが愛した日本でもこれを記念、タゴールの芸術とその思想にさらに理解を深め、彼が発し続けたメッセージを次の世代に伝えていきたいと考えます。そのために、私たちは記念事業を計画しています。記念事業の趣旨にぜひご賛同いただき、記念事業に参加されますことを心よりお願い申し上げます。

タゴール生誕150周年記念会代表 河合 力

### ◆主な記念事業

- 6月3日(金) タゴール生誕150年記念式典 インド大使館
- 6月末予定 「タゴールと日本」講演と詩朗読 賀川記念館(神戸市)
- 9月23日(金) 「タゴールと日印文化交流」ナマステ・インド第2会場  
9月24-25日 ナマステ・インド 特別参加 出展と展示会
- 10月15-16日 絵画と音楽で奏でるタゴール展 インド・ディワリ祭2011
- 11月 シンポジウム「なぜ今タゴールか(平和へのメッセージ)」
- 秋 「タゴールの問いかけるもの」 大学での講演と詩朗読
- 勉強会の開催 タゴールの詩、音楽、哲学等の連続勉強会の開催

事業の最新情報は最終ページに記載したホームページ、ブログにてお知らせします。

## ◆ タゴール略年譜

- 1861年 5月7日、ベンガル州カルカッタの名門タゴール家に15人兄弟の14子して生まれる。  
父デベンドラナト44歳、母シャロダ・デビ37歳。
- 1878年 弁護士になるために英国留学。  
英国、ブライトンのある学校に入学、翌年ロンドン大学で4ヶ月勉強。
- 1883年 ムリナリニ・デビと結婚
- 1891年 「東西文明」について演説、シャンティニケタンの「ガラスの祈り堂」完成。
- 1901年 同地にブラフマン修養道場学校（現ヴィシュヴァ・バーラティ国立大学）を創立。
- 1910年 ベンガル語の詩集『ギーターンジャリ』が刊行される。
- 1912年 英文『ギーターンジャリ』の草稿をロンドンでローゼンスタインに手渡し、  
イエーツが多くの文学者たちの前で朗読
- 1913年 アジア人として初のノーベル賞となるノーベル文学賞を受賞。
- 1915年 イギリス政府からナイトに叙される。後にアムリットサル虐殺事件に抗議し称号を辞退。
- 1916年 米国への途次、初めて来日。神戸、大阪、東京などで講演。  
画家横山大観の客人となり、後、原三溪邸に宿泊。
- 1917年 第2回目の訪日、米国からの帰国途次日本に立ち寄る。
- 1924年 第3回目の訪日。汎太平洋クラブの宴会で講演、日本の西洋帝国主義模倣を批判。
- 1929年 第4、5回目の訪日。インド独立運動家ラシュビハリ・ボシュと会う。
- 1941年 8月7日死去、享年80歳。

## ◆ 主なタゴール関係文献

「タゴール著作集」(全12巻)、第三文明社

「タゴールの生涯」K・クリパーラニー著、森本達雄訳、第三文明社

「タゴール詩集」山室静訳 河出書房

「タゴール」我妻和男著 麗澤大学出版会

「タゴールの絵について」S・ポンドパッディヤイ著、我妻和男訳 第三文明社

「タゴール詩集 ギーターンジャリ」渡辺照宏訳 岩波書店

### タゴール生誕150年記念会 会員募集要項

この事業にぜひご賛同いただき、ご入会をお願い申し上げます。

団体会員は1口10万円、個人会員は1口1万円（サポート会員寄付3000円）

1) 銀行振込 みずほ銀行横浜支店 普通口座 ”2807869”

名義 タゴール150 JAPAN

2) 郵便振替(株式会社ゆうちょ銀行)

口座 記号 ”10290” 番号 ”26094961”

名義 タゴール150 JAPAN

## 【タゴール生誕 150 記念会】

代表 河合 力 寛方・タゴール会事務局長

メンバー 池本俊昭 横浜印度商協会事務局  
岡倉登志 大東文化大学教授、天心研究会代表、寛方・タゴール会会長  
大井淑代 日本興亜損害保険  
大塚寿昭 慶応大学 FSC 研究員  
大場多美子 合同会社 P i T i V i 代表  
リタ・カール 横浜インターナショナルスクール司書補助  
鹿子木謙吉 横浜印度商協会事務局長  
楠井裕章 日印協会会員  
佐々木理香 日本国際問題研究所助手  
塩出明彦 寛方・タゴール会副会長  
プロビル・シャーカー マンチットロ出版代表  
野呂元良 元コルカタ総領事 前マラウイ大使  
伴 武登 国際平和協会会長  
事務局長 大場多美子

事務局 〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-1-7-1103 電話 03-3470-5013

HP <http://www.jaip.org/tagore150japan/>

ブログ <http://d.hatena.ne.jp/tagore150japan/>

メール [tagore150japan@jaip.org](mailto:tagore150japan@jaip.org)